

市民の力で 地域のレールを守っていこう！

内陸線の近況

昨年2月、会社、秋田県、北秋田市及び仙北市の四者で持続的運行に向けた合意書を取り交わしました。現在「平成24年度までに経常損失2億円以内」の目標に向けた、様々な取り組みを進めています。一方で、この合意が存廃問題に一段落した感を生み、存続運動に

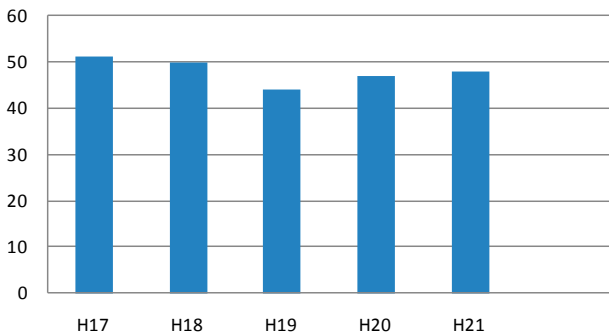
沈静化がみられるという指摘もあります。本年度の上半期では通院、通勤、買物などの地元利用客が2割減少しています。内陸線を明日へつなぐためには、地元の積極的な活用を基礎として、観光振興に活かしていくことが重要となっています。

経常損失額



乗車人員

単位：万人



内陸線と地域の 活性化に向けて

地域や関係者が連携し、内陸線と沿線地域の活性化に向けた多様な取り組みが行われており、その成果が少しずつですが現れはじめています。

T・I・C（ツーリスト インフォメーションセン ター）が着地型旅行を推進

秋田県および仙北市の機能合
体組織として、角館駅前蔵内
に広域的な観光情報の提供と
ともに、着地型旅行商品の造
成・販売の取り組みが進めら
れています。この中で内陸線
および沿線の地域資源を活用
した商品化にも取り組んでい
ます。

海外観光客が大幅増加

近年、国内外の観光客が増加
しています。特に、台湾、韓
国をはじめとするアジアから
の観光客の増加が顕著となっ
ています。韓国ドラマのロケ
地として当地域が紹介された
ことや海外への営業効果が現
れているといえます。

支援の輪が拡大

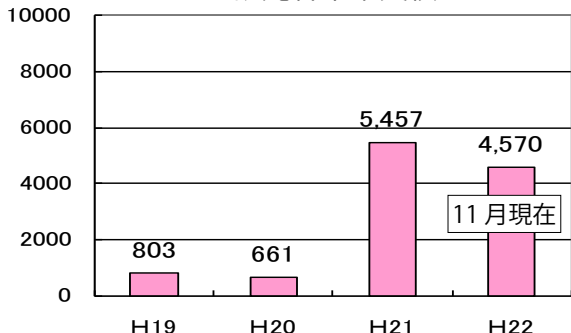
内陸線は全線開業以来、駅舎
の管理や除雪などは地域住民
による駅愛護会活動として行
われています。

存廃問題が浮上してからは、
内陸線を守る会をはじめ支援
団体が数団体結成されました。

また、地域と内陸線の活性
化を一体的に進めようと仙北
市ではNPO法人秋田内陸沿
線地域エコミュージアム会議
が設立され、まちづくりワー
クショップ、散策ルートの構
築、食や伝統文化の磨き上げ
など、地域活性化の取り組み
も始まっています。

アジア観光客乗車実績

単位：人



4遊フリーパス
4つの乗り物が、2週間以内何回でも乗り降り自由!
秋田 田沢湖・角館エリア
利用開始日：平成 年 月 日 28日
NO 000001 大人2,100円 小人1,050円

4遊（フォーユー）パスが全国発売へ

昨秋、田沢湖・角館・西木・阿仁マタギ間の内陸線、路線バス、遊覧船、乗合タクシーが2日間乗り放題（乗合タクシーは1回）という、県内初の周遊型バスを発売開始しました。

周遊型観光に便利で魅力あるパスになるものと期待しています。今春からは、大手旅行代理店数社により全国発売も開始されることになっていきます。

内陸線を含むJRフリー乗車券の発売

昨年12月4日に開業した東北新幹線青森延伸に合わせて「東北・函館フリー乗車券」がJRより発売開始されました。

このフリー乗車券の中に内陸線が組み込まれることになり、周遊型観光が活発になるものと期待されます。

また、秋からのJR東日本の重点販売地域（ミニDC）に、秋田県が指定されました。地域が一体となって商業・観光の活性化に取り組みることがより重要となります。

会社の収益増加と経費節減対策への取り組み

会社では収支改善のため、乗車促進キャンペーンや企画列

秋田内陸線スタンプラリー
10月1日スタート
乗ったあなたがオーナーです

今春は2回乗車が可能
90本
1回乗車でも大満足
24本
1回乗車でも大満足
8本
団体費でダブルチャンス

1	3	6	8	11	13
2	5	7	10	12	15
4	9	14	16		

「マイレールキャンペーン」実施中

会社では収支改善のため、乗車促進キャンペーンや企画列

今こそ地域の支えが必要

何よりも、内陸線再生の基礎となるのは地域住民の皆様の取り組みです。

自分たちの鉄道だから自分たちで支えるという思いで積極的に活用していただくことが、再生への道になります。

車、利用しやすい旅行商品造成など収入増の取り組みを進めています。

また、経費節減の一環として、人件費の見直しや、今春の北秋田市4高校統合（鷹巣、鷹巣農林、合川、米内沢が統合し、秋田北鷹高校）に伴う需要の変化に応じた、効率的なダイヤへの見直しも検討しています。

○補助金の条件

秋田県内の町内会、自治会、子供会、婦人会、老人クラブ等による旅行
内陸線の利用者が10人以上（実績）

○補助金

運賃相当額の1/2、片道500円／人が上限
（往復利用の場合1,000円）

○期間 ～平成23年2月28日まで

○交付申請書提出期限・手続き等

毎月末までに申請のあったものから順次交付決定を行います

○その他

申請が予算額を上回る場合は、予算の範囲内で調整することがあります。また、申請が予算額に達した時点で募集を終了します。

○お問合せ先

秋田県 建設交通政策課 交通政策班
〒010-8570 秋田市山王4-1-1、6F
TEL 018-860-1283 FAX 018-860-3800
ホームページ「Jango 鉄道」

<http://common.pref.akita.lg.jp/jango/>



グループで乗ろう内陸線

団体利用補助制度

県では、より多く内陸線に乗り上げていただくため、補助制度を設けています。内陸線を使って旅行すると、内陸線運賃の1/2が助成され、大変お得です！どうぞご利用ください。